

リーディングDXスクール事業【実践事例】

京都市立唐橋小学校（京都府）

【取組内容①】「個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実」

～めあてを確認し、児童が学習の方法を選択し、teamsや学習支援ソフトで学びの共有～

- この時間で何を学ぶのかを確認した後に、学習方法を選択し、個別最適な学びの充実に取り組んだ。
- 分からないことや質問をクラウド上で他者参照し、深い学びや協働的な学びにつなげることができた。

見通し
<どのようにみつける？>

- ・本、パソコン・周りを見る
- ・写真をとる
- ・チャットやロイロノートで伝える。

めあて
みのまわりから、円や球、二等辺三角形や正三角形の形をみつけ分けよう。

方法

「中」を読んで大豆をどうやって食べているか、いくつか工夫があるか見つけよう

めあて

パソコン(検索) → けさく → 線 → Xモ → あと

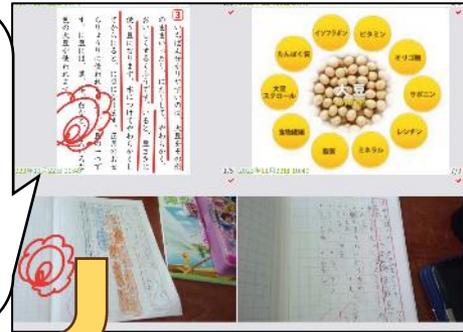
大豆の本や資料 → 人にきく → あと

どの教科もめあての確認をする。学習方法や見通しを立てて、児童がめあてに沿って学習するための最適な方法を選んで学習する。

- メインチャネル
- 一般
 - 01_国語
 - 02_算数
 - 03_社会

クラスのteamsで各教科でチャンネルを作って、気付きや質問を投稿できるようにした。

まとめる時には、教科書に線を引く子、ネットで調べた子、ノートにまとめた子、様々な形で共有される。



一人一台端末を使って調べたり、まとめたりしている。友達に聞きに行ったり、一人でじっくり学習したりして、それぞれが解決するために最適な学習をしている。

<成果>

- ・学習の方法を児童自らが選択、決定するため、主体的に学習するようになった。また、疑問や質問も教師に聞く以外にも児童同士で行うようになった。
- ・教師側は、teamsの投稿やクラウドで共有された情報を見ながら、個々の学習の様子を見回り、アドバイスや素敵なおところをみんなに伝えることで、さらに深い学びにつながった。